

令和3年度 第7回 経営協議会議事要録

- 1 日 時 令和4年1月31日(月) 13時35分から15時11分
- 2 場 所 Microsoft Teams にて開催
- 3 出席者
(学外委員) 植田委員, 梅田委員, 大西委員, 北畑委員, 結城委員, 米田委員
(学内委員) 野地学長, 河村理事, 佐々木理事, 吉田理事, 溝口理事, 香美病院長
(陪 席) 矢部監事, 立木監事

4 協議事項

(1) 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について

溝口理事から, 協議事項1資料により, 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について説明があり, これを了承した。

(2) 国立大学法人法の一部改正等に伴う業務方法書の見直しについて

溝口理事から, 協議事項2-1及び2-2資料により, 国立大学法人法の一部改正等に伴う業務方法書の見直しについて説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。

(3) 大学病院施設費借入金に係る担保の追加について

溝口理事から, 協議事項3資料により, 大学病院施設費借入金に係る担保の追加について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。

(4) 令和3年度補正予算について

溝口理事から, 協議事項4資料により, 令和3年度補正予算について説明があり, これを承認した。

(5) 令和3年度第3四半期資金運用実績について

溝口理事から, 協議事項5資料により, 令和3年度第3四半期資金運用実績について説明があり, これを了承した。

(6) 国立大学法人徳島大学規則及び国立大学法人徳島大学経営協議会規則の一部改正について

総務部長から, 協議事項6資料により, 国立大学法人徳島大学規則及び国立大学法人徳島大学経営協議会規則の一部改正について説明があり, 審議の結果, 原案のとおり承認した。

5 意見交換

(1) 徳島大学の現状とこれからについて

学長から、意見交換1資料により、徳島大学の現状とこれからについて説明があり、引き続き、委員と意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

○地方大学・地域産業創生交付金事業について

・最終的には徳島大学を核としたエコサイクルができあがっていくことが、地域としても大学としても大切であり、この取組を繋げてほしい。

・学部を越えた異分野の連携、大学発ベンチャーの活用、地元企業との連携及びアントレプレナーを含む高度人材育成等が整っていくことでエコサイクルが機能するため、これに向かって進んでほしい。

○魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増について

・医光／医工融合プログラムについて、医学部の関与が弱いと感じるので、医学部の若い学生にもアントレプレナーシップを植え付けるために、ぜひ全医学科生が参画できるような仕組みを検討いただきたい。

→ 医師免許を取得するためのカリキュラムには余裕がないため、全医学科生の参画は難しいが、意欲的な学生もいるため、知恵を絞りながら頑張っていきたい。

・工学と医学の連携に併せて、経営が三位一体となっていけばいいのではないかと、例えば、技術開発やテクノロジーの研究だけではなく、それを活かすような学部があれば、ますます新しい事業展開ができるのではないかと期待している。

→ 新しい学部を作るという改革の必要性を感じている。

○共創の場形成支援プログラムについて

・これからは自治体、企業、大学等の連携が重要であり、地方を元気にするために共創の場の構築は重要であると考えているので、進めてほしい。

・企業と大学の役割分担について教えていただきたい。地域の課題について共同研究をするのか。

→ 研究成果を出すだけでなく、学生を育てる段階でも企業にも関与していただき、また、企業同士での連携についても大学がコアとなり進めていき、地域や大学が生き残れるよう、地域貢献を進めていきたい。

- ・ネオ・ディスタンス社会を世界に広げていくための具体的な活動について教えていただきたい。

- 今後検討していくことになるが、本学の強みである医学と光学を活かして、いろいろなステークホルダーの方に協力いただき、大学が中心となって協議を進めていきたい。

○その他

- ・野地学長の就任以降の6年間に、徳島大学は新学部創設など様々な改革が進められ、徳島大学らしい新しい教育の定着を今後期待している。

- ・科学研究費補助金の獲得件数や共同研究・受託研究、寄附金収入も多く、今後も自信を持って大学運営を進めていっていただきたい。

- ・徳島大学の地域貢献活動も社会に認められ、これからも徳島の振興の核として頑張っていってほしい。

次回の経営協議会は、令和4年3月14日（月）に開催することとなった。

(以上)